

助成年度：平成 13 年度

[所属] 札幌大学 法学部

[役職] 講師

[氏名] 早矢仕 有子

[課題]

分断化された森林に生息するシマフクロウの生態と保全

[内容]

シマフクロウは、極東アジアに狭い分布域を持ち、我が国では北海道のみに生息する世界最大級のフクロウである。魚類を主食とし、川沿いの大径広葉樹の樹洞で営巣するため、豊かな河川と川沿いに広がる天然林に依存して生活していた。開発行為によってこのような環境は北海道の大部分の地域から消失したため、分布域と個体数が縮小し続け、現在では東部に約 30 つがいが生息しているにすぎない。本研究では、彼らの生息環境を保全・復元するための基礎的資料として、シマフクロウの行動圏・環境利用・出生地からの分散過程を調べることを目的とし、出生地で若鷄（メス）を捕獲し、小型発信機を装着して放鳥し、その行動を追跡した。調査個体は孵化から 1 年 10 ヶ月後に親の行動圏から出生地に隣接する河畔林に進出した。その後出生地への出入りも繰り返しつつ、全長 7.5Km の行動域を持った。その間にオスと鳴き交わす行動が観察され、つがいを形成しつつあることも確認された。ただ、調査個体が出生地外で利用していた環境は、牧草地や人気およびカラマツの造林地に挟まれた幅の狭い河畔林で、シマフクロウのつがいが定着し繁殖を成功させるには十分な環境条件を満たしていないことが予測された。現在、シマフクロウの生息地の多くは人為活動により分断・孤立化しており、若鷄が出生地の周辺で定着・繁殖することに成功する可能性が低いことが危惧される。このような若いつがいを成功させるためにも河川および森林環境の包括的な復元が強く求められる。